

# PRESS RELEASE



2020年4月23日

札幌医科大学附属病院

病院長 土橋和文

旭川医科大学病院

病院長 古川博之

北海道大学病院

病院長 秋田弘俊

## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の診療前PCR検査に関する共同声明

### 概要：

札幌医科大学附属病院、旭川医科大学病院、北海道大学病院は、患者及び医療従事者にとって安全な診療環境を保持するために、以下の事項を要望します。

1. 院内感染を防ぐ水際対策として、無症候の患者に対して手術、内視鏡検査、救急医療などの診療を行なう前に新型コロナウイルスのPCR検査を保険適用もしくは公費で施行可能にしていきたい。
2. PCR検査に際して感染予防に必要な个人防护具と検査試薬を確保していきたい。

### 背景：

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大する現状に対し、COVID-19感染者に対する手術、内視鏡検査、救急医療などの医療行為に伴い、患者ならびに医療従事者への感染の可能性が高まります。医療行為に基づく院内感染が発生した場合には、感染が拡大するのみならず、未曾有の医療崩壊に陥ることが強く懸念されます。

1. COVID-19感染者は、酸素療法を必要とする重症例は14%、集中治療室での治療を要するのは約5%で、多くが軽症か無症候性です。
2. 無症候性患者からの感染（潜伏期感染）例が多数報告され、症候の有無に関わらず、感染防御策を行う必要があると考えられています。
3. 感染経路不明感染患者が増加し、症状の有無、問診、肺野の画像診断だけでは、無症候性患者を十分に同定できません。
4. 海外では複数のガイドラインで「可能なかぎり術前にCOVID-19を検査する必要がある」と

# PRESS RELEASE



示されています。

5. 感染患者の手術で、患者の生命予後が悪化する可能性があります。
6. 感染患者の手術（気管内挿管、腸管切除など）でエアロゾル発生は回避できず、周囲の患者や緊密状態で手術をしている外科医、医療従事者の感染の危険性が高まります。
7. 医療従事者の院内感染が多数報告され、医療崩壊を防止するためにもその予防が重要です。

## 詳細：

世界的なCOVID-19感染の急速なまん延を防ぐために、WHOはPCR検査の重要性を繰り返し訴えており、4月22日現在、米433万件、西93万件、伊151万件、独207万件、韓58万件（Johns Hopkins CSSE）など各国では積極的に検査が施行されています。医療現場においては、欧米ではすでに、手術や検査の医療行為前にCOVID-19のスクリーニングPCR検査を行い、医療従事者への曝露や院内感染を防止することの重要性が複数のガイドラインで示されています。一方、本邦におけるCOVID-19のPCR検査は、症状がある患者に対して診断目的で施行された場合にのみ保険適用となり、無症状の患者に対してスクリーニング目的で施行した場合は全額自己負担（1人あたり約2万円）になっています。その結果、国内でのPCR検査が十分に施行されず、4月22日現在、欧米諸国より遙かに少ない19万件（厚生労働省）にとどまっています。

政府は、4月6日に国内のPCR検査数をこれまでの検査キャパシティ（保健所）の約2倍となる1日2万件まで増加すると発表しました。また4月15日には、地域の医師会に運営を委託した「地域外来・検査センター」の設立により、保健所に負担をかけずに、地域の診療所を経由し直接検査を受けることができる新たな方式を示しました。しかしながら、その対象は症状のある患者に限定されているため、実際のPCR検査数は最大で1日8800件（4月22日）と未だ2万件とは大きな乖離があり、現在のキャパシティ上限までPCR検査は施行されていません。陽性患者の診療受け入れ体制、PCR検査の正確性とマンパワー確保など課題は多く残されていますが、北海道の病院においては、病院経費を使用して検査を行うという自衛策をとる施設もでてきており、病院経営を逼迫させる要因ともなっています。

4月1日付けで「水際対策強化に係る新たな措置」が決定され、入国管理においては、COVID-19の国内での感染蔓延を防ぐための水際対策として、症状の有無、国籍を問わず、入国者全員に、PCR検査が実施されるようになりました。イタリアやフランスなど欧州の流行国では、全感染者の10%前後を医療従事者が占めると報道され、日本でも医療従事者の院内感染の報告が急増しています。入国管理と同様に、COVID-19の院内感染を予防するための水際対策として、無症状であっても、手術、内視鏡検査などの診療実施前に、PCR検査を公費で行えるよう（保険適用）にすることを強く要望いたします。

# PRESS RELEASE



道内三医大附属病院は、COVID-19に対して引き続きできる限りの対応を継続します。国内でのCOVID-19感染拡大と医療従事者の院内感染を阻止することで、未曾有の医療崩壊の危機を回避し、通常の診療体制の継続に向け最大限の努力を継続する所存です。

## 本件に関するお問い合わせ先



札幌医科大学附属病院 病院課 土井  
電話 011-688-9478 (直通)  
doi.yoshikazu@sapmed.ac.jp